

第3学年 社会科学学習指導案

場所 : 3年1組教室
学級 : 大野町立大野中学校
3年1組(33名)

〔公民的分野〕

単元名 第4章 私たちの暮らしと経済 第2節 - 生産と労働 - 授業者:

1. 指導の立場

(1) 単元について

学習指導要領に示された本単元での指導内容は、以下の通りである。

(1) 市場の働きと経済

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現すること。

「個人や企業の経済活動における役割と責任」については、起業について触れるとともに、経済活動や起業などを支える金融などの働きについて取り扱うこと。

現在の中学生が成人して社会で活躍する頃には、少子高齢化による生産年齢人口の減少や、グローバル化の進展、技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく変化する可能性が高い。そんな社会の中、日本の経済では、大量生産、大量消費による成長の行き詰まりや、長時間労働、非正規労働者の問題等、様々な問題がより深刻化すると考えられる。

そうした社会の変化に伴って、今後新たな発想や構想に基づいて財やサービスを創造する起業の重要性が一層高まることが予想されている。現在、国の政策でも、起業家教育を推進していたり、国や地方を挙げて起業支援を積極的に行ったりしている。それは、起業が新たな雇用を生むことにつながったり、社会の要望が多様になる中で、多様な企業の形が求められたりするためである。だからこそ、起業の重要性がクローズアップされている。また、起業をすることで、時代、地域、人に合わせた多様な経済活動が生まれ、社会問題の解決にもつながるとも考えられている。

岐阜大学在学中の杉本稜太さんは、「Umai Japan 株式会社」を設立し、グローバル市場で高値で取引される日本の農産物をヒントに、富有柿の東南アジアへの輸出を計画している。

大学生にも関わらず起業を試みる杉本さん。大野町に土地を借りて自社農園で生産から販売まで行う「サプライチェーン」の構築を目指している。「未来へ続く農業」という思いをもち、跡継ぎ問題など岐阜県の農業が抱える今日的課題の解決を図ることを考えてプロジェクトを立ち上げている。コロナ禍の中、大学1年時に起業部入り、起業することにより自分の生きがいを実現させようとしている。

本時、生徒が触れる起業の考え方は、収入だけでなく、「自分は何がしたいのか」を考えて判断し、「自分や社会が豊かになるにはどうしたらよいか」を考え、現代社会を豊かに生き抜くための見方・考え方を育成することにつながっていくと考える。

(2) 生徒の実態

本単元では、「豊かさ」に着目し、「誰もが豊かな暮らしをするためどのように経済に関わっていくか」という単元を貫く課題を設定した。

生徒はこれまでの学習で、「消費者だけでなく、生産者や労働者の立場に立って経済を「考えること」「資本主義経済の中で、企業の最大の目的は利潤の獲得であること」「労働者は働き方を考えることが大切であること」に気付いている。また、情報化、グローバル化、少子高齢化が進展することによる経済の問題があることにも気付いている。しかし、その具体的な改善策について考えられている生徒は少ない。

本時は、起業に挑戦する杉本さんがどのような判断をして、起業という決断をしたのかを考えさせる。そうすることで、これからの社会において起業の考え方が、現代社会の問題を解決したり、生活を豊かにしたりする可能性があることに気付かせていきたい。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

社会科部では、「主体的に社会の形成に参画できる生徒」の育成を目指している。本時では、大野町の特産品である「柿」や「大学生」が起業に関わっていることで、社会に見られる課題に対して生徒自身が「なぜ柿なんだろう?」「なぜ大学生なの?」という疑問を見出し、実生活とつなげる教材を設定した。

研究内容2を受けて、社会科部では、深い学びの捉えを「根拠を明確にして、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関係を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする学び」としている。起業に関して、利潤の追求に加えて、自分の生き方や社会問題の解決といった事象を関連付け、多面的・多角的に起業の意義を見出させたい。また、それを知るために、仲間と起業に対する疑問を見出し、その考えを相手に直接伝え、自分自身の考えを発展させ、豊かな暮らしに自分がどう関わっていくかの、単元の出口への意識と繋げていく。

3. 単元構造図(全7時間)

【単元のねらい】

社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件や企業の精神について考えることを通して、現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合の精神に気付き、様々な課題を抱える今後の社会において経済活動によって豊かな暮らしを実現していこうとする意欲と態度を養う。

【単元はじめの生徒の意識】

資本主義とはなんだろう。生産と労働、企業などの経済の仕組みなど経済活動は私たちの生活にどうかかわっているのだろうか

【単元を貫く課題】

誰もが豊かな暮らしを実現するために、どのように経済に関わっていくとよいのだろうか

事実に関する認識の獲得

【①生産活動と企業】

課：現代の日本企業はどのように経済活動を行っているのだろうか

<ねらい>分業と交換や資本主義経済の仕組みについて調べることを通して、私たちの生活に必要な財やサービスがどのように生産されているか理解することができる。
(知・技)

<生徒の意識>企業は資本主義経済の中で利潤を追求しているんだ。求められる財やサービスが変化している現代社会において、企業の技術革新やアイデアが大事だ。

【②株式会社の仕組み】

課：株式会社はどのような仕組みなのだろうか

<ねらい>株式会社の仕組みを調べることを通して、株式を発行する意味や証券会社の役割、株主の権利について表現することができる。(思・判・表)

<生徒の意識>企業は株主に株を買ってもらうことで、その資金を元手に活動を行っているんだ。証券会社で株式のやりとりがあり、株主になると、配当や株主総会などの権利があることが分かった。

【③労働者の意義と労働者の権利】

課：労働者の権利を守るためにどのような権利が保障されているのだろうか

<ねらい>労働者の権利を保障するために労働組合や様々な法律があることを理解することができる。
(知・技)

<生徒の意識>労働者は企業と契約し労働力を提供することで賃金を得ている。憲法の基本的人権の中にも労働者の権利が認められていて労働三法によって保障されている。豊かな暮らしには働き方も大切だ。

【④労働環境の変化と課題】

課：労働をめぐる環境にはどのような変化と課題が見られるのだろうか

<ねらい>現在の雇用形態を学ぶことを通して、自分が望む働き方や誰もが働きやすい職場にするためにはどのようにするとよいかを考えることができる。
(主体的)

<生徒の意識>能力主義や終身雇用など働き方が多様化している。人手不足や、情報化、これからの働き方も変わってくるかもしれない。ワークライフバランスなど働くことで豊かな暮らしになってほしい。

事実に関する認識を深める

課：なぜ杉本さんは大学生でありながら富有柿の輸出の起業に挑戦しているのだろうか

【⑤社会の変化と起業】

<ねらい>杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦し起業しようとする理由を追究することを通して、企業による利潤の確保や、販売低迷や跡継ぎ問題などの課題を解決しようとしていることに気付き、様々な課題を抱える今後の社会において起業の考え方は自分にとっても、地域社会にとっても豊かな暮らしを実現する可能性があることを理解することができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

杉本さんは大学生なのに起業しようとしているんだ。起業というのは自分とは無関係だと思っていた。身近な柿を世界に輸出しようとしているのは、社会の課題を解決することで利潤を得ようとしていることが分かった。杉本さんの挑戦について色々聞いてみたい。

【⑥社会の変化と起業】

<生徒の意識>

杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦しようとしているのは、後継者不足、少子高齢化といった農業の課題があり、情報化、海外への輸出によって、その課題を解決しようとして起業していることが分かった。柿はもうかるなんて考えたこともなかったけど、新しい発想を組み合わせることで、利潤になるんだ。今がチャンスと思いそこに挑戦しているところがすごい。

【⑦単元のまとめ】

課：誰もが豊かな暮らしを実現するために、どのように経済に関わっていくとよいのだろうか

【単元出口の生徒の意識】

それぞれの企業が資本主義経済の中で財やサービスを提供し、自分たちの生活が豊かになっていく社会の仕組みが分かった。労働者にも権利があり、少子高齢化が進む現代日本の労働の在り方もいろいろ変化している。そんななかで大学生の杉本さんは起業によって社会の課題やニーズから、その課題を解決することで利潤を得ようとしていることが分かった。今後、過疎や情報化など、様々な課題を抱える社会において起業の考え方は自分にとっても、地域社会にとっても豊かな暮らしを実現する可能性があることが分かった。自分の将来の働き方についても考えていきたい。

4 本時のねらい

杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦し起業しようとする理由を追究することを通して、時代の変化を生かし新しい発想で未来に続く農業を創り出したいという思いに気づき、起業の考え方が、地域社会が抱える今日的課題を解決し、より豊かな暮らしを実現する可能性があることを理解することができる。

5 本時の展開

過程	学 習 活 動	研究内容について		
導入	<p>1. 既習内容を想起し、学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ杉本さんは大学生でありながら、富有柿の輸出の起業に挑戦しているのだろうか。</p> </div> <p>2. 課題に対して追究し、全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠をもとに発表できるように「どこから」「なぜ」と問い返し、根拠を明確にして伝えるようにする。 		
展開前段	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>【杉本さんの取組】</p> <p>「あまり稼げない」というイメージの農業の課題を考えた。農家の経験を活かし、後継者不足の土地を集約したり情報化を農業に生かしたりすることで生産が効率的になる。農家にとっても海外の消費者にとってもいいことだ。課題からニーズを捉え、どこに目を付けるかが大事なんだ。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>【柿の可能性】</p> <p>政府も日本の商品を海外で売ることを後押ししている。海外の柿と比べると日本の柿は品質が高い。海外で売れつつある日本の果実は今後可能性がある。少子高齢化の進む日本では、出荷額が横ばいだが、海外に柿の輸出が増えていることは知らなかった。この柿をブランド化してどう売るかを工夫することで、利潤を出そうとしている。</p> </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>農家の後継者不足・情報化・グローバル化 時代の変化を生かし新しい発想で 起業に挑戦していく杉本さんの思い</p> </div>	<p>【杉本さんの取組】</p> <p>「あまり稼げない」というイメージの農業の課題を考えた。農家の経験を活かし、後継者不足の土地を集約したり情報化を農業に生かしたりすることで生産が効率的になる。農家にとっても海外の消費者にとってもいいことだ。課題からニーズを捉え、どこに目を付けるかが大事なんだ。</p>	<p>【柿の可能性】</p> <p>政府も日本の商品を海外で売ることを後押ししている。海外の柿と比べると日本の柿は品質が高い。海外で売れつつある日本の果実は今後可能性がある。少子高齢化の進む日本では、出荷額が横ばいだが、海外に柿の輸出が増えていることは知らなかった。この柿をブランド化してどう売るかを工夫することで、利潤を出そうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「何のために起業したのか?」「なぜ富有柿に目をつけたのか」「なぜそれが利潤につながるのか」と問い、広がった考えを焦点化し事実に関する認識を形成する。 ・形成された事実認識を基に、自ら疑問に思ったことや、もっと知りたいと思うところを考え、社会の仕組みを知ろうという主体的な姿を生み出す。
<p>【杉本さんの取組】</p> <p>「あまり稼げない」というイメージの農業の課題を考えた。農家の経験を活かし、後継者不足の土地を集約したり情報化を農業に生かしたりすることで生産が効率的になる。農家にとっても海外の消費者にとってもいいことだ。課題からニーズを捉え、どこに目を付けるかが大事なんだ。</p>	<p>【柿の可能性】</p> <p>政府も日本の商品を海外で売ることを後押ししている。海外の柿と比べると日本の柿は品質が高い。海外で売れつつある日本の果実は今後可能性がある。少子高齢化の進む日本では、出荷額が横ばいだが、海外に柿の輸出が増えていることは知らなかった。この柿をブランド化してどう売るかを工夫することで、利潤を出そうとしている。</p>			
展開後段	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【利潤の確保】</p> <p>数年後を目指して、利潤を獲得しようとしている。これまでの農・は生産することに力を入れていたけど、生産から販売まで手掛けるビジネスの発想で、安く商品を届けることができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【社会の課題解決 未来の農業】</p> <p>杉本さんの起業がうまくいけば、柿の生産がさらに魅力ある産業になる。こうした新しい産業が生まれることは、少子高齢化の進む、岐阜県や大野町の未来になる。</p> </div> <p>3. 調べた中で、自分たちが疑問に思ったこと出し合い(班交流)杉本さんに質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ大学生のうちに起業しようと思ったのか →今がチャンス。やりたいことにみんなも挑戦してほしい ・大変なことや収入などどう考えているのか →大きな夢があり、大変だけど挑戦することは楽しい <p>4. 杉本さんの話を聞く</p> <p>5. 本時のまとめを行う。</p>	<p style="text-align: center;">【研究内容(2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーとして、杉本さんの起業に対する考え方や、岐阜県の抱える課題に挑戦しようとする考え方を広め、今後少子高齢化、情報化、グローバル化など社会の変化に伴って、新たな発想や構想に基づいて財やサービスを創造することの必要性や可能性について考える。 <p style="text-align: center;">【研究内容(2)】</p>		
終末	<p>杉本さんが大学生でありながら富有柿の輸出に挑戦しようとしているのは、後継者不足、少子高齢化といった農業の課題があり、情報化、海外への輸出などの新しい発想によって、その課題を解決しようとして起業していることが分かった。柿はもうかるなんて考えたこともなかったけど、新しい発想を組み合わせることで、利潤になるんだ。今がチャンスと思いそこに挑戦しているところがすごい。今後変化していく社会において、起業の考え方は自分にとっても、地域社会にとっても豊かな暮らしを実現する可能性があると分かった。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>評価規準【思・判・表、主】</p> <p>杉本さんが起業した理由を「利潤」「新しい発想」「農業の課題解決」の視点から追究し、これからの現代社会のなかで豊かな暮らしをつくっていくための考え方を多面的・多角的に考察できる。(発言内容、まとめの)</p> </div>		

【資料2 日本の農林水産物について】

農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略の進捗（HP参照）

政府は日本の食品の輸出拡大を目指し、2030年までに5兆円の輸出額目標を設定し、輸出拡大実行戦略を立ち上げた。日本の果実は、その高い品質がアジアをはじめとする諸外国で評価され輸出額は近年増加傾向で推移している。果樹などでは、りんご、ぶどう、桃、かんきつ、かき・かき加工品を輸出重点品目を選定し、輸出に対して重点的に支援、政府一体となってあらゆる施策を講じていく。

【2022年果実輸出額】農林水産省 HP

輸出額 前年比

野菜・果実等	輸出額	前年比
青果物	47,492	+24.3
りんご	18,703	+15.4
ぶどう	5,390	+16.4
いちご	5,242	+29.1
もも	2,897	+24.8
かんしょ	2,789	+12.6
ながいも	2,690	+16.3
なし	1,346	+40.1
かんきつ	1,272	+15.5
かき	1,189	+50.0



【資料3 杉本さんの取組】

- ▶ いいものを大量に効率的に生産
- ▶ 後継者不足によって使われなくなった農地の引継ぎ
- ▶ 環境に配慮した栽培方法
- ▶ 観光農園や生産地域ツアーなどで地域経済を活性化



2023年 10t → 2025年 60t → 2026年 100t

最新の技術・栽培方法を導入し
大量生産できる体制を構築

それに伴い、大規模な選果場や販売国での貯蔵場所も建設

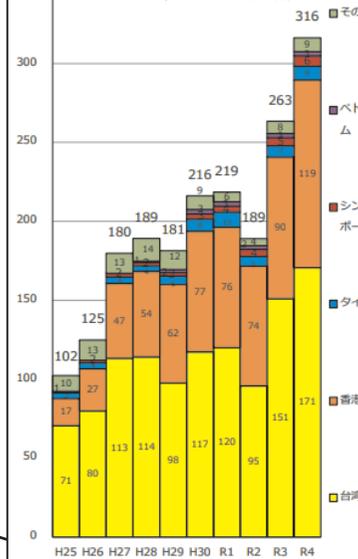
海外のスーパーの海外産の柿の品質は良くない。品質の高い岐阜の柿をブランド化すれば高く売れる。「Umaiブランド」を確立し岐阜の柿が2000円～3000円で海外で売れる。



【東南アジアのスーパーで売られる海外産の柿】

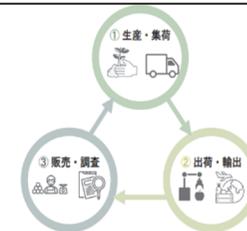
【東南アジア農産物輸出額の推移】

農林水産省 HP



これまで生産してきた農家の貴重な経験をマニュアル化。ドローンやQRコード（生産情報）など技術の進歩を生かし、後継者不足の農地を集約すればより大規模な生産ができる。大野町でも生産。

【資料4 今後のUmai Japan 未来へ続く農業 杉本さんの話】



農産物におけるサプライチェーンの再構築

農産物の川上から川下、生産から販売までを一気通貫で行っています。生産、物流、販売における各データを共有し合うことで、安く早く高品質な商品をお客様のもとへお届けします。また、自社で大量生産を行うことで原価を抑え、世界中の幅広い層に商品をお届けいたします。

商品をつくるだけでなく、「それをどう売るか」のビジネスの視点を農業に取り入れることで、利益を拡大できる。あるものを組み合わせて、新しい発想で勝負する杉本さん。

農家の経験、新しい情報技術、海外進出を組み合わせる新しい発想で、稼げる農業を創り出す。農業の仕組みを根本から変え、未来へ続く農業をつくれると思っています。正直今の段階では収入0。今は、現地調査や、たくさんの人に会い、事業をつくらせている段階なので、いろんな方や企業の支援で事業を成り立たせています。今シーズンが初めて柿の販売を開始します。5年後には50～100ヘクタール（1ヘクタール＝100m×100m）、海外で生産し、秋だけでなく通年での販売を目指しています。こうした取り組みで、農業＝カッコいいにしたいと思っています。

【Umai Japan 株式会社 代表 杉本稜太さんについて】



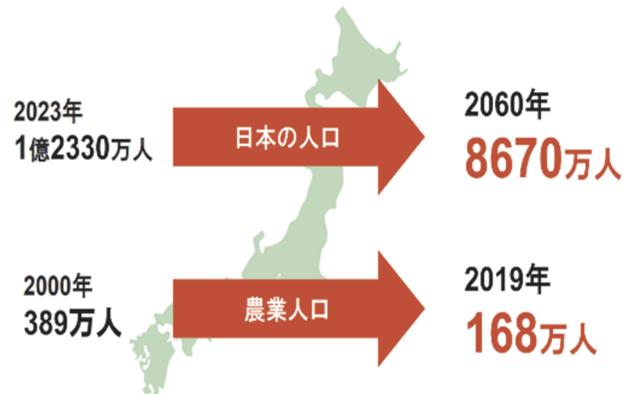
- 2021 年福井県の農業高校を卒業し、岐阜大学応用生物科学部に入学。
- 2022 年起業に興味をもち大学の起業部に入部。高校時代から学習していたスマート農業（農業のデジタル化）推進事業を開始。
- スマート農業に関する事業を大幅に修正。
- 海外調査や農業現場での実務を学ぶ。
- 岐阜県の柿農家を集約し、輸出事業を開始する。
- 2023 年 7 月に Umai Japan 株式会社設立
- 2023 年秋より販売開始

杉本さんの目指すもの
世界を笑顔にできる未来へ続く農業をつくりたい！！

- 世界
 - ① Umai ブランドを通じて世界中の人々が笑顔になる世界をつくる
- 地域
 - ② 地域全体で農業を活性化させ、次世代が憧れる産業をつくる
- 農家
 - ③ 人間の生命を支える農家が称賛される世界をつくる

【資料 1 日本の農業の課題】

近年、国内人口・農業人口が減少する中、変化を生み出さなければ
農業が産業として成り立たなくなってしまう



- 国内の販売が主力→人口減少
- 規模の小さい農家が多い
- 経験や勘による技術→後継者問題
- 生産に力を入れる＝販売は別の会社

農業＝もうからないイメージ

杉本さんの新聞記事 [国産柿生産・販売一手に ブランド化海外市場へ：地域ニュース：読売新聞 \(yomiuri.co.jp\)](#)
株式会社 Umai Japan ホームページ [Umai Japan 株式会社\(ウマイジャパン\) \(umai-japan.jp\)](#)

図 4 かきの結果樹面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

